



白光中通信

【白光中学校重点目標】

互いの考えを伝え合い、自らの考えを発展させ、表現できる生徒の育成

大牟田市立白光中学校

R 7. 1 0. 7 (火)

発行 藤井 清午

第 7 号

【中間考査が始まります】

- 10月9日(木)・10日(金)に中間考査が行われます。すでに早くから学習に取りかかっている人も多いと思います。1学期の期末考査で納得のいく結果を収めることができた人は、前回は振り返って効果のあった取り組みを今回もやってみましょう。前回の結果が納得できるものではなかった人も同じように振り返って、何が不足していたのか、例えば学習時間なのか集中力なのか、それとも取りかかりが遅かったのか、自分で原因を見つけ、それを克服するようにしましょう。

学級や学年で意識して学習する雰囲気をつくり、勉強から逃げずにコツコツと取り組むようにしていきましょう。まだ試験勉強に取りかかっていない人は、今日からすぐに始めてください。

【なぜいろいろな教科や学習内容を勉強するのだろう】

- 3年ほど前に、次のような投稿がSNSで注目を集めました。目にした人はいるでしょうか。一部紹介します。

【誤】「三角関数は社会に出たら使わない」



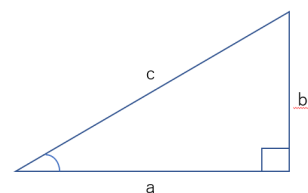
【正】「三角関数ができないと、それを使う職業（そして人生）を選べなくなる」
世の中の『〇〇は社会に出たら使わない』と言われているもの、大体これ。…

これは、ある作家・マンガ原作者の方がSNSに投稿したものだそうです。

三角関数というのは、高校の数学で出てくるので、まだ皆さんは習っていません。だから、「歴史の年号は…」「数学の公式は…」「国語の古文は…」というように、他のものに置き換えてもいいと思います。

この「〇〇は、社会に出たら使わない」というのは、よく聞く言葉です。この言葉の後には、「だから、学校でそれを勉強しても意味が無い。無駄である。」という言葉がつながるのでしょう。

しかし、この投稿者は「三角関数は社会に出たら使わない」という意見に対し、「三角関数を避けて通る人は、三角関数を使わない職業（人生）しか進めない。つまり、自分で自分の進路選択の幅をせばめてしまっているのだ。」ということを主張したいのだと思います。実際に三角関数は、みんなが気付かないところで家電やスマホ、ゲーム等、ものづくりのいろいろな場面で数多く活用されていますし、それを用いる職業も数多くあります。



最近でも、「中学や高校で習う教科が、将来役に立つようには思えない。」と思っていたら、社会に出てから仕事で必要になって困ってしまった人の話や趣味の世界で必要になっ

たという体験談がSNSでたくさん紹介されているようです。

私自身を振り返ってみると、数学は大変苦手でしたが、今思うと数学の学習のおかげで、計算だけでなく、文章を考えたり話をしたりする時に、順序立てて論理的に組み立てることができるようになったと思います。国語の古文や漢文を学習していたおかげで、テレビや書物等で習った部分が出てくると、より深く理解することができ、感動も大きくなります。理科で科学的な事象を学習したことで、様々な現象について科学的に思考することができるようになりました。他の教科も同じように、勉強しておいた方が、皆さんの今後の人生をずっと豊かにしてくれるでしょう。



さて、話は変わりますが、3年ほど前にテレビ朝日の「サンドウィッチマン&芦田愛菜の博士ちゃん」という番組で、姫路城の回が放送されました。

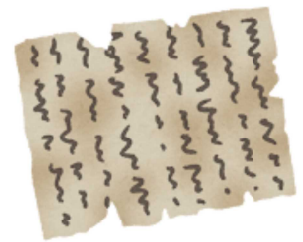
全国のお城のことに大変詳しい小学生の男の子が、城郭研究家（お城を研究している学者）の千田嘉博（せんだ よしひろ）教授と二人で姫路城をめぐり、姫路城の秘密を解き明かしていく内容でした。私は歴史が大好きなので興味を持って見ていると、番組の最後でその男の子が千田教授に次のような質問をしました。

「城郭研究家になるには、どうしたら良いですか？」

すると千田教授は、

「お城を研究するには、

- ・ 天守を研究するために建築史
- ・ 石垣は土木工学的につくられているから工学
- ・ お城は遺跡なので考古学
- ・ 絵図を分析するのに歴史地理学
- ・ 古文書を読むために文献史学



が必要です。この五つの分野を総合しないとお城の研究はできません。だから、大学ですごく広い視野を持って勉強して『お城の本当の姿をつかむんだ』と思って研究していくと城郭研究家になれます。」とおっしゃっていました。

千田教授が話した学問の内容を中学の教科に当てはめてみると、国語、社会、数学、理科、技術にまたがっています。つまり、お城の研究をするには、歴史だけでなく、文系・理系の両方に関わるいろいろな分野の学習が必要になってくるということです。この男の子がもし、社会以外の教科を苦手だからと避けていくなれば、将来城郭研究家になるのは難しいということになるのです。

苦手なものから逃げたくなるのは分かります。しかし、将来の進路選択の幅を広げ、人生を豊かにする教養を身に付けるには、中学生のこの時期に「必要」とか「必要でない」とか勝手に決めつけるのではなく、いろいろな教科をまんべんなく学習しておくことが大切と言えるでしょう。何がみんなの将来にとって必要になってくるのか、まだ分からないのですから。



とりあえず今は、目の前の中間考査に集中し、国・社・数・理・英に全力を注いでいきましょう。